

## 第2次那須塩原市総合計画 第7回 審議会

開催年月日 : 令和4(2022)年9月27日(火)

開催時間 : 14時00分~15時20分

開催場所 : 那須塩原市役所 本庁舎 201・202会議室

(オンライン会議も開催)

### 委員

No.	氏名	出欠	No.	氏名	出欠
1	飯島 恵子	○	13	平井 正美	○
2	市村 典子	○	14	鈴木 耕二	○
3	臼居 芳美	○	15	小泉 秀夫	○
4	高秀 正人	○	16	藤田 英之	○
5	大島 三千三		17	三浦 真紀	○
6	佐藤 和寿	○	18	三田 妃路佳	
7	岡田 陽介	○	19	室越 礼一	
8	齋藤 優	○	20	山口 佳子	
9	佐藤 幹雄	○	21	篠崎 剛史	
10	田中 志	○	22	山島 哲夫	○
11	田村 ひろみ	○	23	尾又 正志	
12	橋本 秀晴	○			

## 1 開会

## 2 会長あいさつ

## 3 議事

### (1) 第2次那須塩原市総合計画（原案）について

（資料1～3について事務局説明）

#### 【会長】

今まで色々な御意見をいただき、それを反映した形で案として出てきた。こちらに御意見御質問があればお願いします。

#### 【委員】

40 ページに進行管理の PDCA の図が書かれているが、この図は定型的なものであるため、他の計画ではもう少し分かりやすい図を用いているものもあるため、参考としてほしい。

#### 【会長】

PDCA はどの計画でも掲載されているものであるが、御意見を参考に検討いただきたい。

#### 【委員】

ワードとしての「アンコンシャスバイアス」「ニューノーマル」などの文言が周知され、市民になじみあるものになればと感じた。

#### 【会長】

カタカナ語はわかりづらいが、計画上では意味が分かるように書いている。

#### 【委員】

全体的に良い形でまとめてもらった。45ページに施策とSDGs の関係を示しているが、DX で関連するゴールが少なくなっているため、関係する取組が無いか検討いただきたい。

#### 【委員】

最近、幼稚園の通園バスに園児が取り残されて亡くなるという痛ましい事故が起きており、施策 7-1 子育て支援の部分において、そういったことが起きないように、デジタル化などの対策が取られてほしいと思った。都内の保育園では、園児が登園した際に親に通知が行くようなシステムが出来上がっているので、親が手に取って分かるようなシステムの導入を図ってほしい。

#### 【会長】

お話いただいた悲惨な事故はデジタルに限らないような対策も可能であり、またデジタルを導入したとしても問題が起きる恐れはある。子育て支援策としての子どもの安全の取組としては含まれているかと思う。

### (2) その他について

（今後の進め方について事務局説明）

#### 【会長】

今後の進め方について、よろしいでしょうか。

#### 【委員】

異議なし。

#### 【会長】

ここからは、今までの審議会を踏まえて、委員お一人お一人から発言いただければと思う。

#### 【委員】

那須塩原市の総合計画は合併時の計画策定に引き続いて 2 回目であるが、現場が頑張らなくてはいけないと感じた。今回パブリックコメントに出ていた職員の人事異動は重要であり、まちづくりや計画を推し進めていくためにチームが大事であると思う。

市役所からでは見えていない地域の魅力があり、地域で活動している人は多くいるが、そのあたりは計画には反映されていないのではないかな。

LGBT などの方へのパートナーシップ制度は県内ですでに数自治体が導入しており、那須塩原市にも前向きに検討してほしい。

市民の力を信じて市民の力を生かすというのが重要である、ということを総合計画策定に携わって改めて感じた。

#### 【会長】

組織であれば人事異動はどうしても必要であり、そこできちんと業務の引継ぎがなされ、知識や経験が蓄積される体制を構築することが重要となる。

#### 【委員】

福祉などでは資格もあるため、スペシャリスト育成にも取り組んでもらいたい。

#### 【委員】

計画を審議するという機会はなかったため、良い機会として経験をさせてもらった。

カタカナ文言の分かりやすさでは、観光施策の 43 ページにおける持続可能な観光にある「ウェルネス」とは何かが抽象的でわかりにくいので検討していただきたい。また、この事業者、市民、観光客の合意のもととあるが、その時々にいる観光客とどのように合意するのかという疑問もありわかりづらい。

那須塩原市の観光では、過去に入湯税の水準が高くなったがお客様は理解できておらずトラブルになったことがあった。誰しもが理解できるような表現がないものか検討していただきたい。

#### 【会長】

ここでいう「ウェルネス」とはどういう内容なのか。また、三者の合意については、観光客は「理解」になるのではないかな。

#### 【事務局】

「ウェルネス」とは健康などの意味がある。注釈を付けたり、文言の変更が可能か、担当課に確認し表現方法など検討する。

#### 【委員】

審議会委員として参加して、全体を見渡し、いろいろな気づきを得た。

自分が所属する団体でも、今後その実現に向けて取り組みたい。

#### 【委員】

まず計画として取りまとめた事務局に感謝する。

今後はその実現が重要となるため、PDCA に取り組んでほしい。PDCA とただいうのではなく、どのように評価・対応しているのかについて、市民にわかるように伝えてほしい。

例えば、学校の通学路の安全対策の話では、私が通る道で学童が歩く横をよく車が通っているのを見ている。計画では対策が子どもへの交通安全教育とあるが、そういったところでは運転者の大人

側へ対応が必要ではないか。

今回の計画では、新庁舎建設が大きな事業であると思うが、こちらもどのように事業を進めていくのか市民により分かるようにしてほしい。今後は新しい社会になっていくのであり、都内の大企業では、テレワークとオフィス面積の縮小などをよく聞かすが、テレワークを受け入れるのであれば、市の職員は新庁舎でそのあたりの問題をどうするかは興味あるところであるため、ぜひ市民に PDCA が分かるように公開して進めてほしい。

**【会長】**

分散型社会については、いま議論を進めているものであり、いずれ公表して進めていく。

**【委員】**

この計画策定に関わらせていただき、ありがとうございました。

今回、東京で那須塩原市の PR イベントを行っていろいろな意見をもらったが、今の時代において爆発的に広まる PR はやはり SNS になるので、上手に発信して行ってほしい。那須塩原市の農業などの凄さが広まり、市民の意識も変わってほしいと感じた。

**【会長】**

食べ物は那須塩原市の地域の魅力である。生乳の生産量本州一であり、牛乳や乳製品などのニーズがあるということ、良いところ・魅力を発信していくと自然と人も集まってくるのではないかと思う。

**【委員】**

防災関係の話として、2019 年の台風 19 号で大きな被害が出たところ、那須塩原市では被害が少なかったが、今後は消防力が重要となる。消防団員は、全国的に半分以上まで減っており、那須塩原市でも 1,439 人の定員に対して実際は 800 人程度であり、高齢化も進んでいる。今、団員確保に向けた検討や消防団の再編を進めているが、あわせて、また出動手当や報酬などの待遇の改善が必要である。消防団のなり手が確保できず消防団をやめざるを得ない地域も出て、災害発生時に支障が発生する。行政の協力も得ながら、いつ災害が来ても安全安心なまちづくりを進めていきたい。

**【会長】**

消防団員の確保はどここの町でも課題となっているが、今後は災害の規模や被害が大きくなることが予想される。那須塩原市は比較的水害は少ない印象である。

**【委員】**

地域によっても状況は異なり、塩原地域などの山間では崖崩れや土砂崩れなどの可能性がある。また、市街地においても道路冠水、床上床下浸水などはあるため、対策はしていただきたいと思う。

**【委員】**

私は途中からの参加であったが、委員の皆様や事務局の方の努力に敬意を表す。

他にも多くの審議会があるが、どれもこの総合計画が前提となるもので、総合計画は重要なものであり、市民にきちんと内容を伝えていくことが重要である。市民が自分のこととして捉え、市の将来のことを考えられるよう、計画の進捗を管理してもらいたい。計画の中で対応が必要なことはたくさんあるが、重点的に取り組むことを明確にし、今後の市の成長につなげてもらいたい。

**【委員】**

前回意見のスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーを取り入れてもらい感謝する。

この2つは今後も重要な取組となっていくと感じている。事務局には大変な業務であったであろうが、このように計画を取りまとめていただき、光栄に思う。

那須塩原市の教育に関わっているが、今いる学校も昔は荒れていたが今では良くなっている。他の那須塩原市の学校についてもどこも良い学校であり、これは代々の先生たちの取組の結果である。今回の計画に基づき教育の取組が進められ、この良い状況が今後も続いていくことを願っている。

### 【委員】

総合計画は最上位の計画であり、良いものが作れてよかったと思っている。

計画では、SDGs や DX などの追加的な部分も掲載されているが、個人的には、どこの団体でも人手不足があるなかで、機械化することで手間を削減し、必要なところへ職員が取り組めるようになってほしい。そのため、DX の実践にも予算を示してほしい。私はやっとスマホが使える程度であるが、今後はデジタルになじみのある人が増えていくのであり、今後必要になっていくと考える。

### 【会長】

子どもたちを見ていると、デジタル化へのなじみ具合は相当であり、これからはそういった人たちや社会になっていく。

### 【委員】

計画を策定している最中にも、長引いているコロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻などが起きており、思い通りにはいかないと、強く感じた。

また、ゼロカーボンについて、東京都では太陽光パネルの義務化も行われていると聞いており、環境のためにはそういった義務付け的な対応、取組も必要となるのではないかと感じた。

人口問題はどうしても避けられないが、少子化を回避するよう取り組むのか、少子化を前提とした社会となるよう取り組むのか、今でもまだ分からないところがある。

### 【会長】

ソーラーパネルの設置などはマンションの多い東京よりも那須塩原市の方が効果的と感じる。

時代はどんどん変わっていくが、どう変わるかはわからず、計画に入れるのは難しい。

少子化については、少子化対策のための努力をしているが、今後少子化を前提としなければいけないような、そのようになるかもしれない。

### 【委員】

輝きネットなすしおばらは男女共同参画などに取り組んでおり、今年もフォーラムも開催する。那須塩原市のブランドブックは素敵であるが、これを知らない人がたくさんいるので、今度のフォーラムで那須塩原ブランド品が当たるような抽選会を企画している。那須塩原市の良いところをもっと広めてほしい。

また、デート DV についての冊子を作って、高校生への出前授業を行ったが、最近はコロナで中止になっていたことが多くあるので、取組を考えないといけない。

審議会に出てわかったことがたくさんあるため、この情報を参加していない市民に伝えるにはどうしたらいいかと感じている。

### 【会長】

那須塩原ブランドは、外の人が知っていても中の人知らないことも結構あり、地域の人に誇りに思ってもらうことが重要である。

### 【委員】

JA の代表として参加し、6-1 の施策に特に関わっているが、市と JA で農地の集約や担い手の確保などの課題感や取組などが共有できている。今後はその実現のために市の業務、JA の業務を実施していかなければいけないと感じた。

日本の食料自給率は、一昨年度は 37%、昨年度に38%ぐらいであり、これを60%程度には上げていきたいため、地産地消などに取り組んでいきたい。

また、この計画は令和 9 年度までの計画であるが、途中でその進捗状況について、きちんと測定してほしい。

### 【会長】

食料の安全保証は非常に重要になっていると感じる。一方で、使われていない農地はたくさんある状況であり、退職した後の生きがいとしての農業というのも増えるのではないかと。

### 【委員】

私はこちらに移住してきて、いろいろな市の役職についているが、この審議会では色々な意見を聞くことができたためになった。

自治会活動を行っている中で、市にお金や力があるのではないから、自分たちでどうにかやっていくという気持ちが重要であると考えているが、今の市民は受け身で市に行政サービスをやってほしいという姿勢になっているのではないかと。

この計画では、「誰もが住み慣れた地域で生活を続けられること」、「協働による持続可能なまちづくり」、「Z世代が誇れる那須塩原とすること」の3つがテーマだと思っている。いずれにしても、市民が行政サービスを待つだけでなく、市と一緒にまちづくりを行っていくべきという意識を持つべきである。そのためには、計画を市民にPRして合意形成していく必要がある。また、総合計画には関連する計画が多いため、総合計画と整合を図るとともに、PDCAをきちんと回すことが重要になってくる。

### 【会長】

市民への周知については、市長がモットーとして取り組んでおり、市民にとってわかりやすいものを作っていただく想定である。

### 【委員】

私自身も移住してきたが、それまでずっと都会で住んできたため、良い経験をさせてもらい光栄に感じている。私は東京から移住してきたが、今の生活はデジタルがあるからこそ成り立っている。もともと東京で会社を経営しており、東京では社員が全員入るオフィスに莫大な経費がかかっていた。それをテレワークなど行うことによりオフィスを縮小した結果、賃料を半減させることが出来た。いよいよこのような働き方ができるようになったということは、那須塩原市にとってもチャンスであると考えている。

また、先程通園バスで幼稚園児が取り残されて亡くなるといった話があったが、デジタルを用いて対策するということが可能である。

総合計画を進めるに当たっても、デジタルは目的ではなくて手段であると思っているが、デジタルによって実現できる幅は大きく広がっている。市役所のデジタル化に関わっているので、引き続きデジタル化を進めるお手伝いが出来ればと思う。

### 【委員】

一般の主婦という立場で参加させてもらって、ありがたかった。これから生きる子どもたちがいいまちだ、暮らしたいと思ってもらえるような市になって欲しい。

昔ニュージーランドで暮らしていた経験があり、この那須塩原市にニュージーランドに似た雰囲気や環境を感じて移住してきた。しかし、那須塩原市は乳牛によるまちづくりを行っているが、牛の生育環境が悪いところが多くあり、そういう現場を見ると心が痛ましくなる。人間の生活も大切ではあるが、産業の基盤となる牛たちが暮らしやすい環境にすることが那須塩原市の魅力向上にもつながると感じている。

### 【副会長】

今回、皆様の協力で良い計画ができて感謝申し上げます。今回、私が所属する商工会以外の視点での、皆さんからの意見を聞いて勉強させていただいた。

総合計画が策定され、意見があったように、今後は事業の実践やPDCAによる見直し、進捗状況の報告などが重要だと考えている。また、今後の計画の実現の中では、計画に載っていないからできない、というのではなく、予期せぬことが起きたときには臨機応変な対応が出来るようにしていきたい。

那須塩原市ブランドについては外へは発信することはできても、市民に対して伝えるところが少ないので、それも考慮していただきたい。

**【会長】**

他に意見はよろしいでしょうか。

今後は、この計画をどうやって実施していくかと、市民への周知や臨機応変な対応である。では、最後にこれまでの意見を受けて、副市長にお話しいただきたい。

**【副市長】**

この審議会では、各分野の中心となる皆様から様々な視点から貴重な御意見をいただいた。

計画を作ったとしても、どのように事業を進めていくかということや、市民に周知していくことが重要であることは認識している。また、総合計画はあくまで基本計画であり、これを踏まえて、柔軟に取り組んでいきたい。

**【会長】**

これまでは色々な意見が出てそれを反映してきたが、これからは行政だけが推進するのではなく、皆様も一緒になって取り組めればと思う。

4 その他

5 閉会